

## 令和6年度 教科研修会Ⅱ 理科 授業の様子

|           |                       |       |       |
|-----------|-----------------------|-------|-------|
| 単 元 名     | 白い粉の正体                |       |       |
| 授 業 学 級   | 1年E組 (41名)            | 授 業 者 | 齋藤 有人 |
| 教 科 の 学 び | 身のまわりの物質、白い粉末の見分け方、質的 |       |       |

### 【本時の様子】

生徒たちは、2種類の白い粉の正体は何かを特定するために、前時までに扱った白い粉の性質に着目して、班で作成したフローチャートを基にそれぞれの白い粉の性質を調べ、性質シートと照合して追究をしました。

実験結果を性質シートと照らし合わせて、内容が一致すれば、それを根拠に白い粉の正体を特定できそうだと予想した生徒は、複数の根拠を基にして、2種類の白い粉の正体を説明することができると考えました。

ある班の生徒は、白い粉Xは、加熱したとき焦げたので有機物であるグラニュー糖、クエン酸、デンプンのいずれかであると考えました。さらに水にもよく溶け、中性の液性を示したので、グラニュー糖であると説明をしました。白い粉Yは、加熱したとき融けた後に異臭を放って焦げました。さらに、水によく溶けて酸性を示したことから、クエン酸であると説明をしました。

次時は、この探究の過程を振り返って、どのような工夫をすれば白い粉の正体を客観的に説明することができたのかという観点で、自分たちの立てた実験計画の適切さを考えます。そして、白い粉の特定方法について自分なりの結論をまとめていきます。



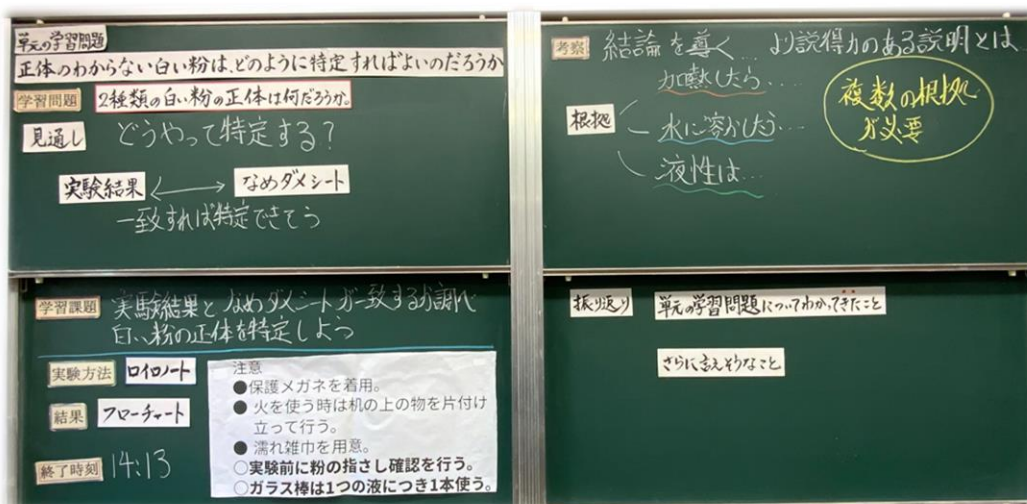
フローチャートを確認



実験観察の様子



他の班の友に説明



本時の板書